令和８年度　第１回鹿島市水道事業審議会　議事録【概要版】

１．日時：令和８年１０月２７日（火）１０時～１１時４５分

２．開催場所：新世紀センター　２階　会議室

現地視察：久保山浄水場・久保山配水池

３．出席者

（１）委員：池田委員、片渕委員、亀井委員、唐島委員、喜多委員、合六委員、
小柳委員、田口委員、武富委員、渕上委員、迎委員、森委員、吉田委員

（２）事務局：中村水道課長、田口課長補佐、椛島課長補佐、
岸川管理係長、冨岡工務係長

４．内容

（１）開会

（２）事務局紹介

（３）会長あいさつ

（４）議事

事務局：「令和７年度鹿島市水道事業の決算の概要について」説明

（５）質疑応答

A 委員：今概要の中でやはり有収率が伸びていないということが一番問題かなと思います。配水池が７つか８つあると思いますが、配管が一番距離的に長い久保山配水池系が一番漏水率は多いでしょうか。それとも各配水地ごとに有収率を出されていると思いますけど、その点どうなっていますか。全体では 72.4%ですけど、各配水地ごとに管路延長が長い分漏水対象になるのか、それとも布設した時期によって老朽管が多いのか。

事務局：漏水の状況を見ていきますと、よくあるのは水道管の本管の破裂になりますが、こういった漏水は、老朽化が進んでいるとはいえ、件数的には年間 10 件から 20 件あるかどうかぐらいになります。主な漏水の原因といたしましては、道路にある水道の本管から１件ずつ各個人宅に引き込む給水管がありますが、この漏水が積もり積もって数字が大きくなっています。対応としまして、水道の本管を毎年更新する際に、その本管についてる分の給水管に関しては、水道メーターまでの管をなるべく交換するようにしていますが、年に数%しかできない状況です。久保山配水池は、市内の約７割程度に給水していますので、影響としてはそこの漏水量が大きいと思います。

B 委員：一般家庭の引き込み管の漏水が多いというふうにご説明いただきましたが、知らない家庭が多いのではないでしょうか。漏水調査をして、お宅の方も漏れていますよということが分かればいいのではないかと思いました。

事務局：給水管も漏水調査をしています。漏水調査や検針時に漏水が分かったときは本人にお伝えしています。発見した時点で、自己負担で修理してくださいとお願いしているところです。

（6）その他

事務局：その他未普及地域（大字三川内）水道整備事業」について説明

（7）質疑応答

C 委員：この未普及地区について、今後、給水戸数や収入はどの程度見込まれていますでしょうか。これによって水道事業にどの程度の影響が出てくるかよろしくお願いします。

事務局：対象の地区は 4 水道組合あり、合計で 38 戸 89 人が対象となります。料金に関してはまだ算定をしていませんので分からないところです。今回給水車で運搬して供給します。本来であれば管を繋ぐところですが、管を布設すると施工に 5 年ぐらいかかり、費用が高くなります。今回の事業に関しては、総額でも 1 億円には満たないと見込んでいるところです。今年度、詳細設計の委託業務を契約し、この中でいろいろ方法を決めていきます。

C 委員：事業費としてはかなり抑えられるということで、今後、全国的にもこのような地域については、同じような選択肢も増えているという認識でよろしいでしょうか。

事務局：現在この運搬給水をされているところがなく、手探りの状態になっています。しかし費用がだいぶ抑えられますし、山間部では人口減少が問題となっていますので、これからこのような方法が増えてくるのではないかと考えています。

D 委員：運搬車を購入して運搬するということですが、どのくらいの頻度で運搬をするのですか。

事務局：これから詳細設計業務で調査をして決まってくるところですが、現在のところ毎日 365 日運ばなくてはいけないと見込んでいます。

D 委員：365 日を何年も続けて 1 億円に円収まるものでしょうか。、毎年 1 億円かかっていくのか、どのくらいのスパンで見られているのかと思いますが、本当にその管を設置するより安く収まるのか気になりました。

事務局：1 億円いかないというのは初期投資の金額で、維持管理としては年間 1 千万から 2 千万円かかると考えています。10 年程度を見込んで、その後施設の更新などが出てきたときに、この先どうするのかというところを再検討したいと考えています。

E 委員：今の話と重複しますが、運搬する世帯数も減少してくるかなと思います。この給水車というのも、特殊車で結構金額がすると思います。それに維持管理費も考えれば、今言われたように何年か続いてきたら世帯の減少もあるし、維持費はどんどん上がっていくし、ちょっとどうなのかなと思いました。

事務局：今回、地元の水道施設もかなり老朽化している中で、10 年ぐらいで施設の更新がきます。その時点で人口がどのくらいになっているのかを踏まえて、再投資になるのか、どのような方法がいいのか検討が必要になります。大木庭地区や東三河内地区も給水区域に入っていますので、ゆくゆくは管を通さなくてはいけないようになっています。そうなると、西三川内地区の管だけではなく、途中で供給する分も計画しなくてはいけないとなると、かなり大きな管になり、大規模の投資が必要です。そのようなことを懸案した中で、最小限に費用を抑えて、なおかつ困っていらっしゃる方を早く救済するような形を考えて計画しています。

E 委員：考えてみると、これは災害用の給水みたいな感じですね。災害用として 38 世帯のところに水を毎日運ぶいうことですね。

事務局：これから水のタンクの容量をどれくらいにするか調査して、なるべく負担を抑えるようにはしたいと考えています。

C 委員：運搬送水事業は、国もこのような方向性を示しています。人口減少に伴い、これ

までやってきたように管を単純に伸ばしていけばいいとはならなくなってきている中、事業自体を見直す方法の一つとしてこの運搬送水が入ってきたのかなと思います。とにかく早く、そして安く提供できるという部分では、考え方として間違っていないと思います。ただリスクとかデメリットがあるようであれば、導入段階でしっかり検討いただければ、意外に良い方向になるのではないかなと思います。

F 委員：この要望が出るということは、水と電気は生活するためにはなくてはならないものでもあると思います。新しく運搬という形での給水というのは、やり方としてコスト的にも非常にいいと思います。経営的なことを考えると非常に難しいかもわかりませんが、人間生活として最低のことをしてもらうためにはぜひやらなくてはいけない重要なことではないかなと感じています。

（8）その他

事務局：「衛星を使った漏水調査」について説明

（質疑なし）

（9）現地視察

久保山浄水場・久保山配水池